20（　）年６月職員会議資料（高等学校版）

**【不登校対策委員会だより No.３】**



高校では本人の欠席が続き，欠課時数や欠席日数が規定を超過してしまうと，進級や卒業が難しくなります。不登校状態になり，超過が近づいてからの支援では，ほとんどが登校や授業への出席を促す声掛けになってしまうのではないでしょうか？また，本人も「このままじゃ進級（卒業）ができない」，「どうして体が動かないんだ」といった焦りや自責の念から，ますます自己肯定感が下がることも考えられます。そう考えていくと，高校では欠席が長期化する前の早期の対応が極めて大切になります（不登校委員会だよりNo.１参照）。では，欠席状況が気になり始めた生徒に対して，どのような支援を行えばよいのでしょうか？

**【　生徒が前に進むために　～ 心のエネルギーを満たす ～　】**

不登校兆候が見られる生徒に接する際，大切にしたいのは**「心のエネルギー」**です。私たちも，何か行動を起こす時には「やってみよう！」という気持ちが必要になります。不登校生徒も同様で，心のエネルギーが満たされていないと，なかなか前に進むことはできません。学校に足が向かない時や，支援をしても変容が見られない時などは，**心のエネルギーを満たすこと**を重点に支援策を考えてみるとよいかもしれません。では，本人の心のエネルギーを満たすためにチェックしたいことを確認してみましょう。

**① 本人の心のエネルギーになるものは？**

心のエネルギーとなり得るものは，長所，頑張っていること，好きなこと，趣味や特技，友人，保護者，そして教師などがあります。

**② 学校側で，本人の心のエネルギーを満たすためにできそうなことは？**

例えば，家庭訪問で担任が顔を合わせる，登校した時に多くの先生がさりげなく声を掛ける，友達と簡単なゲームをさせたり趣味の話をさせたりするなどがあります。

**③ 家庭で，本人の心のエネルギーを増やすためにできそうなことは？**

料理，ゲーム，音楽，映画など，興味を示すことを一緒にしたり，手伝ってくれたことをほめたりするなどがあります。普段の何気ない会話もエネルギーになります。

**【　再登校に向けて① ～心のエネルギーチェックリスト～　】**

心のエネルギーがどれくらい満たされてきているかを確認するためには，次のようなことを確認するとよいでしょう。

**□ 外出はできるか？（昼夜問わずどこへでも）**

**□ 日常生活のリズムは規則的か？（起床時間・就寝時間・食事の時間など）**

**□ 自分から進んで行う行動はあるか？（手伝いなど何でも）**

**□ その他エネルギーを感じさせる言動はあるか？**

**□ 退屈し始めているか？**

また，学校への関心度についても以下の点から確認します。

**□ 教科書，制服，学習机などに抵抗なく触ることはできるか？**

**□ 学校に関する話題を自分から話すか？**

なお，これらのチェックは家庭と連携して行います。学校と家庭が協力して支援を進めるためにも，普段からの関わりを大切にしましょう（連携のポイントは前号参照）。

**【　再登校に向けて② ～学校側のチェックリスト～　】**

次は，学校側の受け入れ体制について確認します。

* **学習に対する不安は？**

現在の学習進度に追い付くことも大切ですが，不安を感じていることが分かっている場合は，その解消から始めてもよいでしょう。また，参加できそうな授業がある場合は，参加するために必要なところだけを先に学習することも考えてみましょう。

* **クラスの受け入れ体制は？**

支援に対する教員の考えをクラスの生徒たちに伝え，協力してほしいことを話します。また，いつ登校してもいいように，本人の下駄箱やロッカー，机の周りなどを整理整頓しておきましょう。

* **本人への対応について，全職員で共通理解している？**

登校することに不安感や緊張感を持っている生徒にとって，先生方からの「待ってたよ」「頑張ってるね」といったメッセージは，とても心強く感じるはずです。

　□ **本人や保護者が不安に思っていることを確認した？**

学習，友達との関わりなど，本人が不安に思うことを確認し，安心して登校できる

ような環境を整えておくことも大切です。

**【　再登校に向けて③　～登校復帰に向けたチェックリスト～　】**

再登校に向けた上記のチェック項目がクリアできたら，登校復帰に向けた段階に入ります。その際は以下の2点をチェックしてみてください。

* **目標のステップはスモールステップになっている？具体的？**

次ページの「支援目標参考シート」を参考にしてみてください。

* **登校までのステップを本人と話した？**

本人と話し合うのは，支援が本人の自立を目標にしているためです。本人の心のエネルギーの満たされ具合も考えながら，話し合う機会を探ります。

**【　再登校した後も　～常に心のエネルギーを意識して～　】**

不登校状態の時は，心のエネルギーが減りやすくなっており，周囲は十分にエネルギーが満たされたと思っていても，登校に向けたステップを踏んでいる間に，あっという間になくなってしまうこともあります。きっと，支援を進める中で，次のステップに進める時もあれば，前の段階に戻ることもあると思います。前に進まないと本人は焦りや不安を感じるのではないでしょうか。

そんな時，支援する側として大切にしたいのは，生徒本人に「きっと前に進める」「そのうちきっとできる」と自信を持ってもらえるようにすることです。そのためにも，常に心のエネルギーを意識し，それを満たすための支援の在り方を考えましょう。

***⇒次回，「不登校対策委員会だより」は７月の職員会議で配布する予定です。***

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | **支援目標の目安** | **留意点** |
| **ゴール** | 通常登校 | 明確な目標を持ち，充実した学校生活を送る | **☆目標を持ちながら無理なく登校出来ている****か定期的に本人や保護者に確認する。** |
| 通常登校を通して，学校生活に慣れる | **☆定期的に１対１で話す機会をつくる。ここ****で支援の手を緩めると，再び不登校になる****ケースが多いので十分に留意する。****☆家庭と連携して，本人の様子を把握し２～****３か月は無理をしていないか確認する。** |
| 通常登校前 | 一日中過ごせる日を増やす | **☆時には状態が逆戻りすることもあり得る。****その場合は，戻ったところから再度支援を****進めていく。****☆下の項目を目安に，次の到達目標へ進める****かどうかチェックする。****□現在目標としている活動が自然にできてい****る（物足りないぐらいに感じている）****□下校後の様子から，その活動を負担に感じ****ていない（家庭と確認）**例１）学校に関するもの（話題，学習道具など）への反応例２）生活リズムや言動の変化（イライラや不安感， 家族といる時間，食事の量）など**☆児童生徒の実態によっては，ＳＣ・ＳＳＷ****・他機関等との連携も考慮する。** |
| 週１日だけ，朝から放課後までクラスで過ごす |
| クラスに入り，午前中だけ授業に出る |
| クラスに入り，午後だけ授業に出る |
| クラスに入り，苦手な授業も受ける（１～２時間） |
| クラスに入り，得意な授業を受ける（１～２時間） |
| 誰もいないクラスに入ってみる |
| 保健室，別室等に登校し，課題に取り組ながら一日を過ごす |
| 保健室，別室等に登校し，課題に取り組ながら半日を過ごす |
| 保健室，別室等に登校し，課題に取り組む（30分～１時間） |
| 保健室，別室等で２時間過ごす |
| 保健室，別室等で１時間過ごす |
| 居心地の良い場所に入ってみる（図書館，体育館等） |
| 保健室，別室等に顔を出してすぐ帰ってくる |
| 登校復帰前 | 昇降口まで行って戻ってくる | **☆下の観点を目安に，登校刺激を与えてよい****かどうかチェックする。****(1)心のエネルギー**□外出ができる□日常生活のリズムが整っている□自分から進んで，手伝いなどをする□その他エネルギーを感じさせる言動がある□退屈し始めている（「暇だ」と言っていないか）**(2)学校への関心度**□机，教科書，制服等への拒否感がない□学校の話題が本人から出るか，または話題を出した時に表情があまりくもらない**※あくまでも目安であり，他にも気を付けて****見たいことがあれば追加してよい。****※７項目全てを確認してから登校刺激を与え****るのが基本だが，本人の様子や支援体制等****を考慮し，確認前でも与えられそうな場合****は与えてもよい。ただし，上手くいかなか****った時に備えて心のエネルギーを減らさな****い手立てを用意したり刺激を与えた後の様****子を確認したりすること。** |
| 校門まで行って戻ってくる |
| 学校の見えるところまで行く |
| 家から次の通りまで行く |
| 登校準備をし「行ってきます」と言って玄関を出てみる（すぐ戻ってＯＫ） |
| 朝，学校に行く準備をする |
| 夜，次の日の時間割に合わせて教科書や筆記用具をそろえる |
| 自分から学校の話題を出す,学校の話をしても表情があまりくもらない |
| 自分の部屋から出てきて，家族と食事をしたり学校に関係のない話をしたりする |
| 自分の部屋に他者を入れる |

**※児童生徒の実態に応じて，内容や順番を変えていきましょう。**

【　支援目標参考シート　】